

名産使った菓子で勝負

2008年9月24日 中国新聞

ピープル



池田正則さん(58)▶▶

＝福山市瀬戸町

「福祉活動に加えて、一品を練り込んだかりんとう一般企業の商品と勝負する。ハードルは高いが、やるとやらないとは違う」。障害者の就労訓練の一環として、福山名産

名産使った菓子で勝負

を販売した。

「福祉活動に加えて、一品を練り込んだかりんとう一般企業の商品と勝負する。ハードルは高いが、やるとやらないとは違う」。障害者事業所「ジョイ・ジョイ」にも気を配り、作業に当たる利用者はマスクを着け、作業を着をまとう。「こ

障害者の就労支援に取り組む社会福祉法人アンダンテの理事長

・ワーク引野」では、かりんとうのほかには自家製の豆腐も作る。「本格的に取り組みたい」と、保健所から豆腐、菓子製造業の営業許可を取るなどした。衛生面にも気を配り、作業に当たる利用者はマスクを着け、作業を着をまとう。「こういう積み重ねが働くという自覚をつくる」と強調する。

かりんとうの販売を始めてから、各地から買いに訪れる人が増えた。今後は販路を拡大し、店舗を出すことが目標。「障害者はどうしても就労経験が少ない。少しでも仕事を増やし、社会で頑張ってもらいたい」

(山本堅太郎)